平成22年度事務事業評価シート

平成 22 年　6 月　10 日　作成

事務事業No./名称	■サービス部門 □支援部門	生推ー01	文化行政推進事業	
主管課	文化推進課	関連課	鎌倉芸術館担当	
分野名	文化			
目標（目標値）	歴史を継承し、文化を創造するまち 市民の文化活動を支援育成し、新たな文化を創造・発信します。			

ザイムスコード及び個別事業名	
463	文化行政推進事業
1381	文化行政推進事業

人口等のデータ	データ区分	21年度	20年度	備考
	人口	176,669人	176,484人	・各年4月1日（住民基本台帳）
	世帯数	78,131世帯	77,430世帯	

運営資源状況				
	決算値	19,163千円	18，217千円	決算値には、芸術館使用料(執行課芸術館)938,340円含む
	（国・県）			
	（負担金等）			
	（一般財源）	19,163千円	18，217千円	
	人員配置数	1.7人	1．5人	
	人件費	16,307千円	14，438千円	
	協働のパートナー	市民文化祭企画運営委員会・Jazz鎌倉実行委員会	市民文化祭企画運営委員会・Jazz鎌倉実行委員会	

事務事業運営経費				
	総事業費	35,470千円	32，655千円	
	市民1人当りの経費	201円	185円	
	対象者1人当りの経費	731円	631円	

ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）	団体名					

指標と評価	
指標	参加者数
評価	◎

◎目標を達成　○目標に向かって前進　△横ばい　×後退

	目標値	実績値
20年度	29,500	51,777人
21年度	29,500	48,497人
22年度	29,500	
23年度	29,500	
最終年度（23年度）	29,500	

創意・工夫・課題等改善状況		
	課題・問題点	（21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか） ・鎌倉市民文化祭では、新たな文化の創造・発信に向け、若い世代の参加を求める事業について、企画運営委員会で検討したが、実施することができなかった。 ・歴史的な文化の発信イメージは高いが新しい文化活動の想像力が十分でない。 ・特色ある歴史的背景を、芸術文化にゆかりのある人材がありながら鎌倉らしい文化推進課の情報発信力が弱い。
	創意・工夫・課題等の改善点21年度の成果	（課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか） ・平成21年度市民文化祭のオープニングイベントでは、大船高校合唱部や、北鎌倉女子学園コーラス部によるコーラスでの参加を得たことで、若い世代の入場者が増加した。 ・市制施行70周年にあたり、新たな文化の担い手となる子どもたちや若者にも親しまれ、郷土愛を醸成する鎌倉市愛唱歌を公募により作成し、CDの配布を行った。
	未解決の課題・問題点	（21年度事務事業の取組において対応（解決）できなかったものはどのようなことですか） ・鎌倉の文化の層を広げるため、次世代を担う若い世代向けの企画が求められる。 ・歴史的な文化の発信イメージは高いが新しい文化活動の想像力が十分でない。 ・特色ある歴史的背景、芸術文化にゆかりのある人材がありながら鎌倉らしい文化の情報発信力が弱い。
	今後の方針（対応・改善）	（上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応（改善）していきますか） ・鎌倉ゆかりの芸術家や文化人に協力を得て、子どもや若い世代が芸術・文化に親しむことができる事業を推進する。 ・若い世代が新たな文化を発信できる事業の推進を図る。 ・上記の新たな事業に取り組むに当り、既存事業の委託化や効率化についての見直しを検討する。

A:充実又は拡大　B:現状のまま継続　C:統合又は縮小　D:廃止又は休止　E:事業完了

一次評価（課長評価）			二次評価（部長評価）		
評価結果	改善の必要性	厳しい財政事情の中、既存事業を見直しつつ、鎌倉の歴史的遺産や文化芸術にゆかりのある人材を活かし、市民等と連携を図りながら、次世代に向け新たな文化を発信していく。	評価結果	改善の必要性	既存事業の見直しを行うとともに、鎌倉の歴史や文化を活用して、市民や事業者等と連携協力し、次世代に向け新たな文化を発信していく。
B	有		B	有	
課長名		青山　陽子	部名・部長名		生涯学習推進担当　植松　芳子